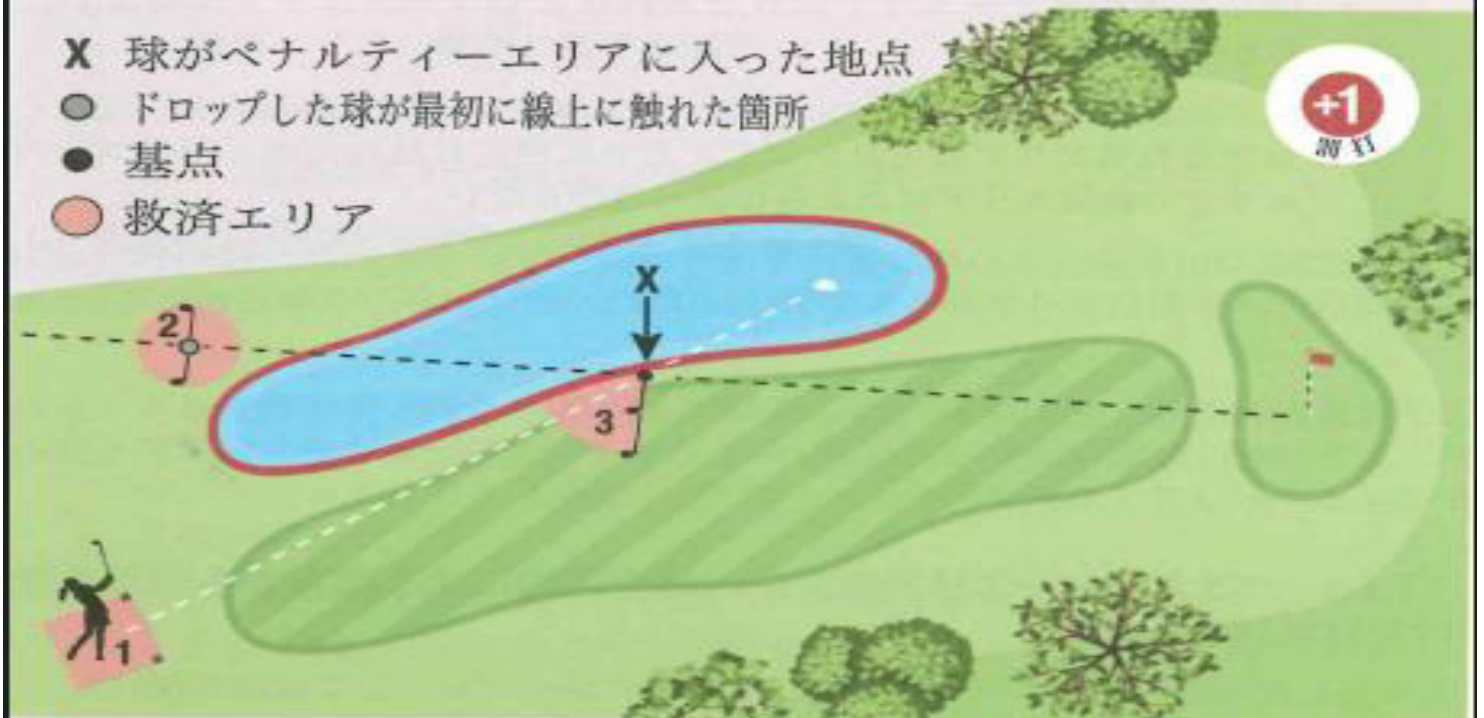


図#2 17.1d: レッドペナルティーエリアの球に対する救済

- X 球がペナルティーエリアに入った地点
- ドロップした球が最初に線上に触れた箇所
- 基点
- 救済エリア



球がレッドペナルティーエリアにあることが分かっているか、事実上確実で、プレーヤーが救済を受けたい場合、プレーヤーには3つの選択肢がある。

それぞれ1罰打で、プレーヤーは次のことができる。

- (1)直前のストロークを行った場所に基つき救済エリアから球をプレーすることによってストロークと距離の救済を受ける。
- (2)ホールとX点を結んだ後方線上のペナルティーエリアの外に球をドロップすることによって後方線上の救済を受ける。
- (3)ラテラル救済を受ける(レッドペナルティーエリアに限る)。救済を受けるための基点はX点で、球は2クラブレンジスでX点よりホールに近づかない救済エリアの中にドロップし、その中からプレーしなければならない。

(3)ラテラル救済(レッドペナルティーエリアに限る)。

球がレッドペナルティーエリアの縁を最後に横切った場合、プレーヤーは元の球か別の球を次のラテラル救済エリアにドロップすることができる(規則14.3参照)

- ・ 基点:元の球がそのレッドペナルティーエリアの縁を最後に横切ったと推定した地点。
- ・ 基点から計測する救済エリアのサイズ:2クラブレンジス。しかし、次の制限がある:
- ・ 救済エリアの場所の制限:
 - 》 基点よりホールに近づいてはならない。
 - 》 同じペナルティーエリア以外であればどのコースエリアでもよい。しかし、
 - 》 基点から2クラブレンジス以内にコースエリアが複数ある場合、球はその球を救済エリアにドロップしたときに最初に触れたのと同じコースエリアの救済エリアに止まらなければならない。